

漢方について

漢方Q&A

漢方はどんな症状や病気に使われるの？

現代医学の中心をなす西洋医学は、病気の原因を特定して得られた病名を診断することにより、治療が行われます。

ですから速やかに確実に病名が診断される病気であれば、西洋医学で適切に治療できる時代になっています。

一方、漢方は、身体に元々備わっている恒常性を維持する機能の低下や不調を助け補う働きをすることにより健康を回復させます。

したがって、現代西洋医学でも症状や病気の原因が不明の場合や、病名が診断されても治療法が未開発もしくは不十分な場合には、漢方医学にまだまだ大きな役割が残されています。

漢方と西洋医学は決して対立するものではありません。それぞれの特長をよく理解して、もっとも適切な治療を選ぶのが賢明です。

たとえば生活習慣病などの慢性疾患では、漢方は、じっくりと体質改善して治していくにはふさわしい治療法といえます。

西洋薬と漢方薬を併用しても大丈夫？

ほとんどの場合は、とくに問題ありません。西洋薬と漢方薬の併用は、医療の現場でもよく行われます。併用によって、主な症状だけでなく、それに伴う症状も解消するということがあります。

また、西洋医学による治療を漢方で補うことで治療成績が向上したり、西洋薬の副作用が軽減して薬の効果が増したり、病気の合併症を予防できるなどのメリットが確認されているものもあります。

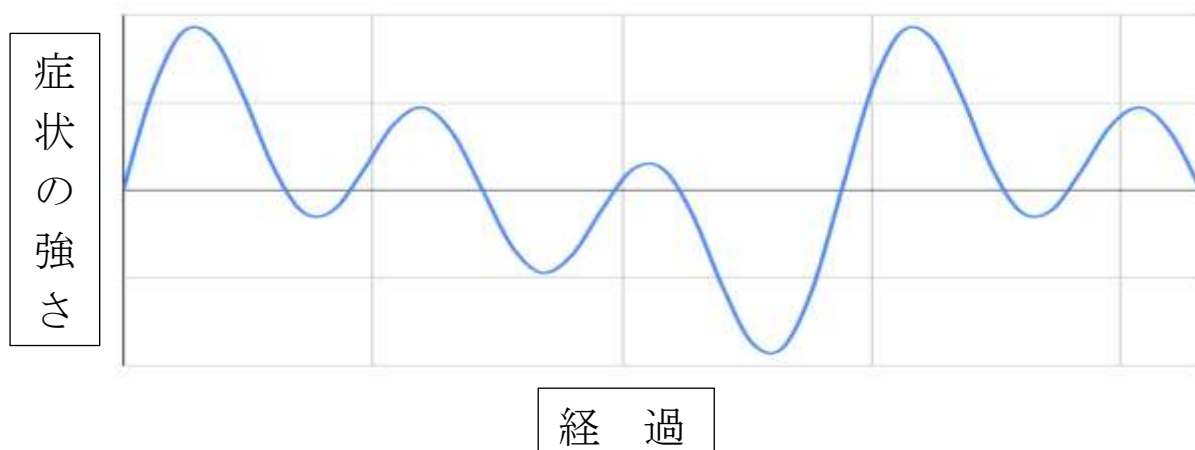
ただし、医師に確認してから併用するようにしましょう。西洋薬を飲んでいる人が、漢方薬を併用しようとする場合には、お薬手帳を持参して漢方専門医を受診し、併用できるかどうかご相談ください。また、健康食品やサプリメントなどを使用する際にも医師とご相談ください。

漢方はどれくらい効くの？

それでは、漢方を服用すると今の症状がどの程度良くなるのでしょうか？飲む前にある程度目途が立たないかしら？それが分かればよいのだけれど---。そう思われるのももったもんですね。

漢方がどの程度効くかを予測するには次の方法があります。

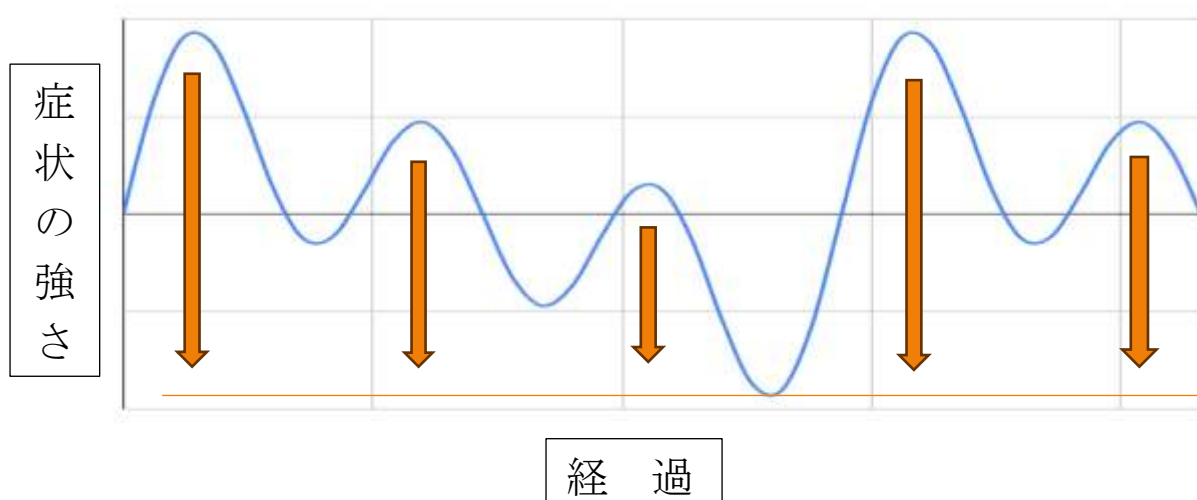
頭痛にしろ倦怠感にしろ、特に慢性の場合は症状に下図のように波があることが多いものです。



この波はどのようにしてできるのでしょうか？それはその時の季節や天候や様々なストレスなどの外界の影響と、自律神経やホルモン等の体内の適応作用の結果として現れるものと考えられます。

つまり体は症状を抑えようと懸命に頑張っているわけで、それでも抑えきれずに出てくるものが「症状」と言えます。そしてそれは上図のように波があることがほとんどです。

この状態で「証に合った漢方」を服用した場合、漢方は体内の適応力を最大限に補完増幅することによって波を鎮めますが、その場合の効果の目安としては、下図のようにそれまでの波の最も静まった低いレベルまで鎮静させる効力があると見込めます。



これが当面予見できる漢方の効果ですが、さらに内服を続けることによってより低いレベルまで波を抑え、ついには症状を消滅治癒させてしまうことも期待できます。

漢方の効果は生体が有する自然治癒力によるものであることがご理解いただけるのではないのでしょうか。

「証に合った漢方」って言うけれど、「証」って何？

はい、この「証」こそ漢方の根幹をなす診断概念なんです。

どういうことかと言うと、西洋医学では、まず種々の検査によって、臓器、組織、細胞単位、さらには分子レベルで異常とその原因を調べ、その結果によって患者さんの「病名」が診断されます。そして、西洋薬については、その作用が薬理学的に適応する病名があらかじめ決められています。そこで、病名が診断されることにより最適な薬が決まります。その際、同じ病名の患者さんには同じ作用を持つ薬が処方されることになるのです。

ところが、漢方医学は、「病名」ではなく、患者さんの「証」（しょう）に従って薬を決める「随証治療」（ずいしょうちりょう）というのを原則としています。

どうして「病名治療」ではないのでしょうか？

その前に、現代の西洋医学では現在病名が全部でいくつあるかご存じでしょうか？国際疾病分類によれば、2018年のICD-11では約55,000個あります。この病名の数の多さはそれだけ西洋医学の進歩を象徴していると言えましょう。

一方、漢方医学では病気の原因を追究し、病名を5万個もの詳細に分類することはしませんでした。いや、出来ませんでした。2000年前の古代中国には、もちろんレントゲンも心電図も血圧計も顕微鏡も聴診器すらありません。頼れるのは人間の五感のみでした。病人を前にして古代より漢方医は視覚（望診）聴覚と嗅覚（聞診）言語覚（問診）触覚（切診）により心身の状態に関するあらゆる情報を集めようとしました。

こうして「患者が現時点で現わしている症状を気血水、陰陽・虚実・寒熱・表裏、五臓、六病位などの基本概念を通して認識し、さらに病態の特異性を示す症候をとらえた結果を総合して得られる診断であり、治療の指示でもあるもの」が証であると言えます。

証は英語では「pattern」と訳されますが、西洋医学でいう疾患（disease）や症状（symptom）の概念とは異なり、病気に対する体全体の反応パターンであることがお分かりいただけるでしょうか。

そして、西洋医学の診断は集団を対象とした統計学的なデータに基づいたものですが、漢方医学の証は患者さんの個性や体質を重視した「全人的医療」「個の医療」に通じる概念なのです。

うーん、ちょっと話が難しくなっていましたねー。

それでは、この証について、もっとわかりやすく実際に沿って見てみましょう

たとえば、同じ「風邪」でも…

- Aさんは肩がこって少し寒気がするが汗は出ない
- Bさんは悪寒が強く微熱があってぐったりしている
- Cさんは熱はないけど喉が痛い

と、同じ病名でも体の状態はずいぶんと違うものです。漢方はこの違いをととても大事にします。

そこで登場するのが **証** です。

証はその人の体質を踏まえた上で今の状態をまとめた、いわば「漢方的な診断名」なのです。

これが決まると、どの漢方処方を使えば良いかが2000年来の経験より導かれます。これが「随証治療」です。

上記の A さん、B さん、C さんについてならこんな感じでしょうか：

● 西洋医学の場合

A さん B さん C さん共に「あなたは風邪です。薬はこの風邪薬です」と同一の西洋薬が処方されます。

● 漢方の場合

A さんには「あなたの風邪は“悪風（おふう：軽い寒気）と肩こりがして汗が出ないタイプ（表寒実証）”だから、葛根湯ですね」

B さんには「あなたの風邪は“悪寒が強いが熱感は少なくだるくてぐったりするタイプ（表寒虚証）”だから、麻黄附子細辛湯が良いでしょう」

C さんには「あなたの風邪は“発熱がなくのどが痛むタイプ（裏熱虚証）”だから、桔梗湯が合いますよ」

と同じ風邪といってもそれぞれ異なる漢方薬が処方されるのです。

どうですか証は漢方の世界での治療の羅針盤のようなものだということがお分かりいただけましたね。

漢方薬は薬局でも直接買えるけど、診療所で処方されるものとどう違うの？

現在、ほとんどの漢方エキス製剤は「医療用漢方製剤」として医師の処方箋があれば、保険調剤薬局で健康保険が適応されますが、一般薬局やドラッグストアで処方箋なしで購入する場合

は保険適用外となり、全額ご自分で負担しなければなりません。

さらに、薬局で市販されている漢方薬は、医療機関で出される医療用漢方製剤に比べ、1回のエキス含量を3分の2あるいは半量に抑えてあるものが多いようです。

そして、薬局で買われる場合の一番の問題は、品質や費用だけでなく、むしろ適切な処方を選ばれているかどうかです。漢方薬は、あなたの証に合った処方を服用しなければ十分な治療効果が期待できません。たとえ漢方薬の知識のある薬剤師さんに相談するとしても、診察を受けることはできません。ですから、日本東洋医学会が認定している漢方専門医に保険診療をしてもらい、ご自分に合った漢方薬を処方してもらうのがすべての面でベストです。